

自動車兵の爲に

五〇

一二、自動車兵の爲に

1. 意氣で通れ

自動車は人の行ける所なら必ず行ける。
道が狭くなつたら切り拓き崖に打突つたら四、五千人が束になつて引つ張
れ。

自動車は意氣で通る、擔いでも突破せよ。

2. 車の整備はよいか

一本のボルト一つのナットでも緩んだり落ちたりしては自動車は動かぬ。
どんなに疲れても點檢、給脂、整備を完全に、いざ鎌倉で不覺をとるな。
オイルは、水は、空氣はよいか。電氣火花は強いかな。

0351

3. ガソリンの一滴は血の一滴だ

ガソリンは自動車の血液である
之がなくては車は動かぬ。
作戦地は温度が高いのでガソリンは揮發し易いから高速ノズルを開き過ぎ
るな。

又始動が容易だから停車したら直ぐに發動機の廻轉を止めよ。

4. 發動機の高轉を無暗に上げるな

始動と同時に瓦斯を上げて飛び出すことは禁物だ。
熱の爲オイルは熱くなり薄くなつてゐる。
殊にアスファルト道では地面の輻射熱で益、ひどい。此の時うつかり回轉
を上げるとオイルの廻りが焼付を起す。少くとも最初の五分間位は低速でじ

自動車兵の爲に

五一

69

0352

自動車兵の爲に

わじわと同轉を上げねばならぬ。

五二

5. 濡れた時

クランク室に海水が入つたら直ちに新しいオイルと交換せよ、その儘放つて置くとシリンダの中へ吸ひ上げられピストンやシリンダ壁に錆を生じ焼付の原因となる。

不意にスコールに遭つたら自分は濡れても電氣諸装置又は濡らさぬやうに濡れたら直ぐに拭へ。

6. オイルは、水は

熱の爲オイルは熱くなり薄くなつて粘りがなくなる。そうなるとシリンダの壁を洗ふピストンの頭の炭煤をクランク室に流し込む。だからオイル量が規定通り有るからとて安心してはならぬ。必ずオイルを拇指と示指の頭につけ粘り具合と色を見よ。黒ずんで煤が入つてゐるのは禁物だ。

119

0353

冷却水は休止の度に検査し絶えず補充に心懸けよ、然し塵分の含んだ水は使はぬがよい出来たら出發の時持つて行け。

一三、兵器を愛せ

1. 錆び、徴び、曇る

銃も暑いのは厭だといふ、人が休む時には一緒に休ませてやり水を飲ます代りに油を多くやる事が大切である。空氣や水を容れてある兵器（駐退機のやうな）は、膨脹し精密兵器類は著しく精度が低下する。鐵は錆び、革は徴び硝子は曇るから手入を充分にしなければならぬ。

2. 規整子は最小分劃に

高温の爲自動火器の銃尾機關は運動が圓滑になるから規整子は必要の最小分劃にし、又駐退液は耐熱度の高いものを用ひ要すれば多少之を排出して量

兵器を愛せ

五三

0354